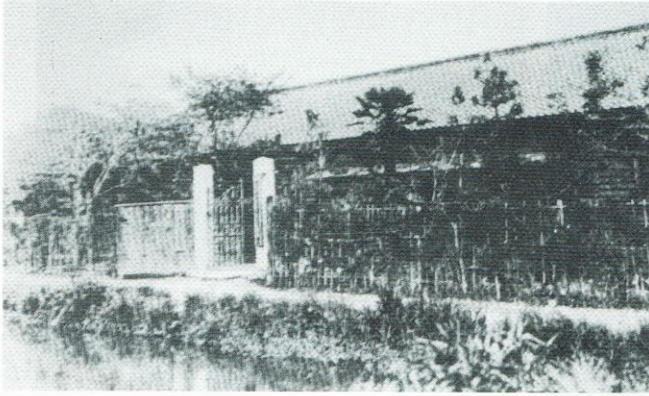
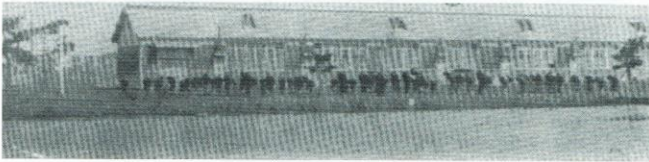


## 学校の移り変わり



明治の末ごろの学校



昭和7年ごろの学校



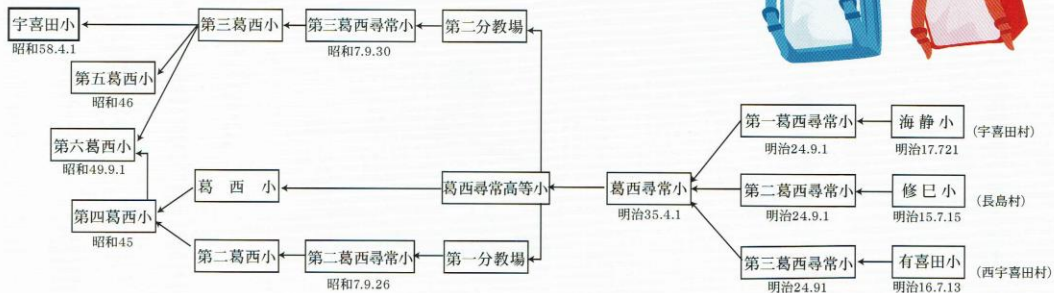
開校したころの宇喜田小学校

江戸川区に学校ができて約百五十年、  
宇喜田小学校ができて三十年になります。  
どのような移りかわりがあったのでしょうか。



# 宇喜田小学校三十年のおゆみ

## 宇喜田小学校ができるまで



## ○はじめの学校

江戸時代には、「寺子屋」という子どもたちがそろばんや習字を教わる場所がありました。はじめは武士の子だけが通っていました

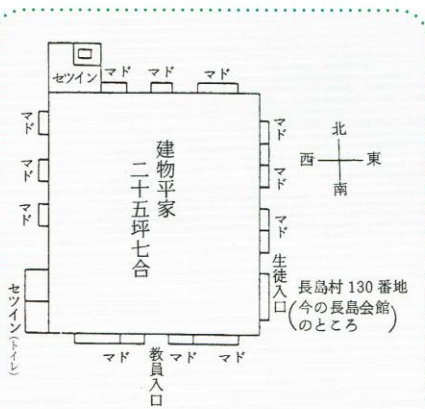


が、だんだん農民の子も通うようになりました。

明治のはじめごろは、「じゅく」のようなものがありました。一人の先生が、自分の家、寺、神社などで本を読んだり、字を教えたり、そろばんを教えたりしていました。このような「じゅく」は、長島村、桑川村、下今井村、東宇喜田村にありました。

学校をつくろうという国の考えと、勉強しようという人の願いで、一八八二年、長島町百三十番地に「修巳小学校」ができました。修巳小学校では、二人ほどの先生が、六十人ぐらいの児童に、習字やそろばんを中心に勉強を教えていました。今と違って、勉強道具は少ししかありませんでした。しかも、一ヶ月十銭のお金がいりました。

一八八三年、それまでの「じゅく」、私立学校だった榊原学校が、そのまま有喜田小学校として、西宇喜田村（今の六軒町）に開校しました。



修巳小学校 平面図



## 学校名の移り変わり

- 海静小学校 ▼▼▼ 第一葛西尋常小学校
- 修巳小学校 ▼▼▼ 第二葛西尋常小学校
- 有喜田小学校 ▼▼▼ 第三葛西尋常小学校

続いて、一八八四年、東宇喜田村に海静小学校ができました。今の東葛西四丁目、天祖神社の場所です。その後、新川より南の方にあった村々が一つになり、「葛西村」となつてから、学校の名前も変わりました。

## ◎江戸川区誕生、新しい学校

一九三二年一月一日、東京に三十五の区が置かれ、江戸川区が生まれました。当時の人口は一〇万人ぐらいでした。

そのころの宇喜田は、二百戸ほどの家が新川沿いと、今のバス通りに沿って並んでいるくらいで、ほとんどが田んぼでした。錦糸町方面に行くバスも走っていたのですが、主な交通手段は新川の定期航路で、みんなボンボン船を利用していました。宇喜田から船堀に行くのには、通行料を払って木の橋やわたし船（新渡し）といって、今の新渡橋のあたりにありました。を利用しました。その頃の新川は、川底まで透き通って見え、人々は洗濯をしたり、米をといたり、野菜を洗ったりしていました。また、夏になると水泳もしました。泳げない子たちのために「水れん場」を作り、大人の人が教えていました。

一九三三年、江戸川区誕生と同時に、学校の名前が変わりました。葛西小学校の第一分教場が第二葛西尋常小学校、第二分教場が第三葛西尋常小学校となりました。



新川で遊ぶ子供たち

## ◎その頃の様子



当時の教室風景

当時の学校では、授業の始めと終わりを用務員のおじさんが、大きな鐘を鳴らして知らせていました。わらぞうりをはいている子もいましたが、裸足の子もたくさんいたので、校舎に入る前に、汚れた足を井戸の水で洗っていました。かたかけかばんや、ふるしきづつみに教科書や弁当を入れ、学校に通っていました。

一九三七年に日本は中国と戦争を始め、一九四一年には、アメリカ、イギリスなどの世界中の国とも戦争を始めました。これが、太平洋戦争です。学校の子どもたちは、「学童ぞかい」といって、学校ごとに安全な田舎の方へ行き、先生と子どもたちだけで集団生活をしました。

戦争は、一九四五年八月十五日に終わりました。戦争が終わり、葛西へ移り住む人が増えるようになりました。交通も便利になり、一九六九年には地下鉄東西線が開通し、葛西駅ができました。広い空き地を利用して、いくつもの高層集合住宅がつくられ、たくさんの方が住むようになりました。



校庭拡張工事



開校記念式典

## ◎ 宇喜田小学校の開校

一九七二年には、宇喜田第一住宅ができました。宇喜田でも、家がどんどん建ち、急に人口が増えたため、学校を建ててほしいという願いが出てきました。いろいろ相談した結果、公園にする予定だった土地を区が買い上げて、一九八〇年に学校を作ることが決まりました。しかし、学校を作るには、土地がまた狭かったため、隣に住んでいた方に移ってもらい、とうとう宇喜田小学校ができることとなったのです。

宇喜田小学校は、一九八二年四月から六月に基礎杭打工事が行われ、一九八三年三月に完成しました。

一九八三年四月一日、第三葛西小学校から分かれて、六百五十七名、十八学級で開校となりました。校名は、地域の方からの強い要望で、この地の古くからの名「宇喜田」となりました。同年十月二十日には「施設完成・開校記念式典」が行われ、校章と校歌が出来上がりました。

翌年一月から校庭の拡張工事と宇喜田自由の森（今のうきたの森）の工事が始まりました。そして、一九八五年五月十一日に、工事の完成を祝う式が行われました。

## ◎ 思いがこめられた校舎

日本地図が描かれた中庭、その庭を囲む明るい廊下、ステンドグラスが輝く多目的室、広々とした正面玄関の大階段。宇喜田小学校を築立つ子どもたちに、一生忘れられない思い出の場所となるようにという思いが込められてこの校舎は造られたそうです。

また、校庭の東側には「うきたの森」があります。もともとこの土地は公園地に指定されていたので、その名が「うきたの森」として残ったのです。



宇喜田小学校



ステンドグラスの美しい校舎

### 校章の由来

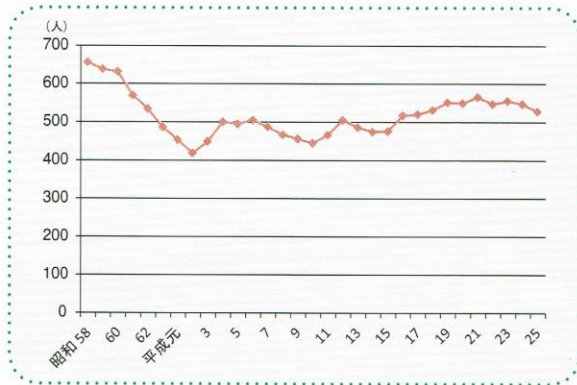


校舎の内壁は、一階は大地を表す黄土色、二階は伸びゆく姿を表わす若草色、三階は空というイメージから忘れな草色に塗り分けられ、外壁は真っ白に塗装されました。これらの色にマッチする樹木は「桜」です。校章はこの「桜」の花をかたどり、「進んで学び、明るく元気で、心のやさしい宇喜田の子」との願いを込めて、宇喜田の学校名を中央に入れたものになっています。文字は縦に入れるか、横に入れるか二案ありましたが、当時の先生方が横に決めたそうです。

### 校歌について

「開校施設完成記念式典までに校歌制定を」との強い願いがあり、歌詞・作曲ともに専門家に依頼することにしました。「いつでもどこでも親しんで歌える校歌を」との思いで歌詞・作曲されました。作曲を手掛けた、林光氏（一九三二〜二〇二二）は、宇喜田小学校のために「がっこう」という素敵な曲を作ってくださいました。「がっこう」は宇喜田小の第二の校歌として、音楽朝会や行事等で歌い続けられています。

## ◎ 宇喜田小児童数の変化



開校した年の児童数は、六百五十七人、十八学級でした。その後、少しずつ減り、平成二年度（一九八九年）には、四百二十人、十二学級になりましたが、次第にマンションが建ち始め、児童数も徐々に増えていきました。平成二十五年（二〇一三年）九月一日現在、五百三十二人、十七学級です。

## ◎ 楽しい学校生活

宇喜田小学校の生活の中には、いつも子どもたちの元気な声と笑顔があふれています。休み時間には広い校庭やうきたの森で元気に遊ぶ姿、大きな行事に一生懸命取り組む姿、教室で進んで学ぶ姿、たくさん活躍する様子が見られます。今年の開校三十

周年記念運動会では、各学年の迫力ある演技や競技が見られ、周年の年にふさわしい素敵な運動会になりました。学んだことを発表する展覧会、音楽会、学芸会は、三年に一回ずつ行われています。「うきたまつり」や、一年生から六年生で編成されるなかよし班活動では、活動を通して友達と協力することや思いやりの大切さを学んでいます。体力向上の二環として、体育的な行事もたくさんあります。練習の成果を發揮する水泳大会、新川沿いを走りぬく持久走大会、クラス全員で心を一つに記録に挑戦する大なわ大会など、行事を通して丈夫な心と体を養っています。明るく広い部屋で給食を食へることのできるランチルームは、ふれあい給食、親子給食、バイキング給食で利用しています。天気の良い日以外でお弁当給食を食へる青空給食もあり、栄養士さんや調理師さんのおかげでいつもおいしい給食をいただくことができます。



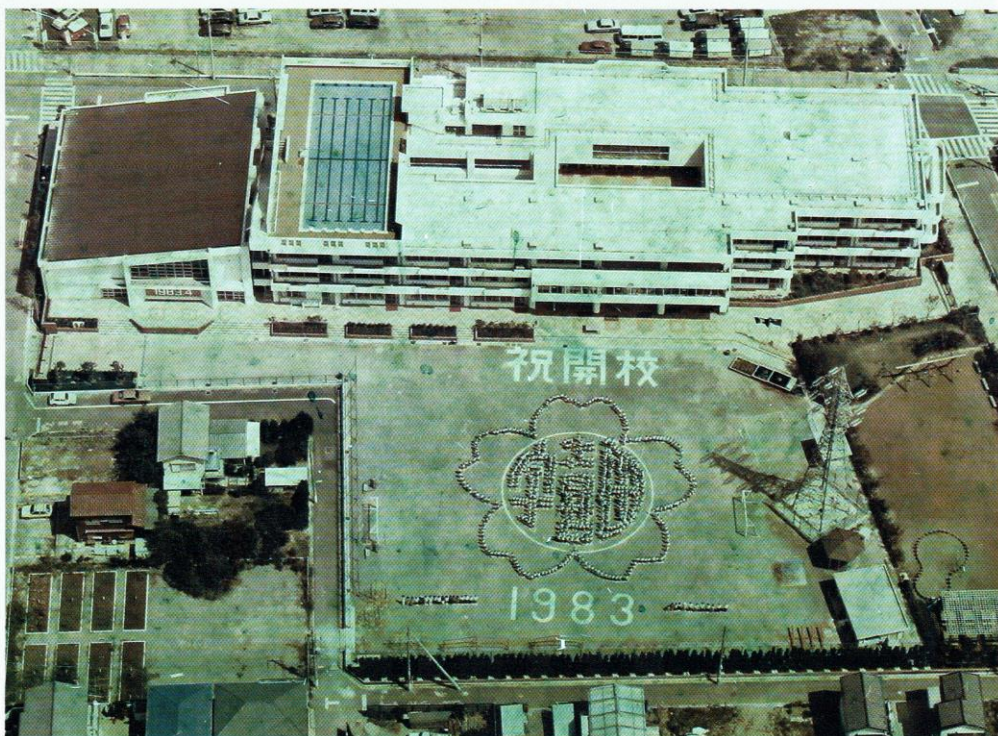
ふれあい給食



6年生を送る会



運動会



1983年(昭和58年) 開校



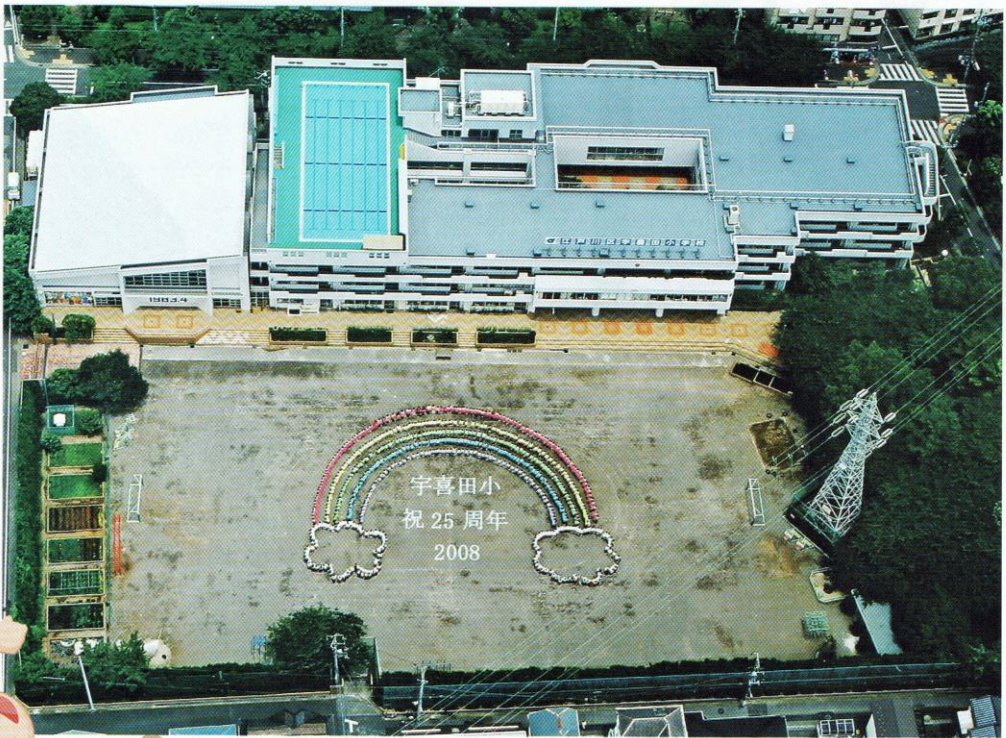
1992年(平成4年) 開校10周年

空からみた宇喜田小のうつりかわり





2003年(平成15年) 開校20周年



2008年(平成20年) 開校25周年







3 新川



4 葛西図書館



新川さくら館



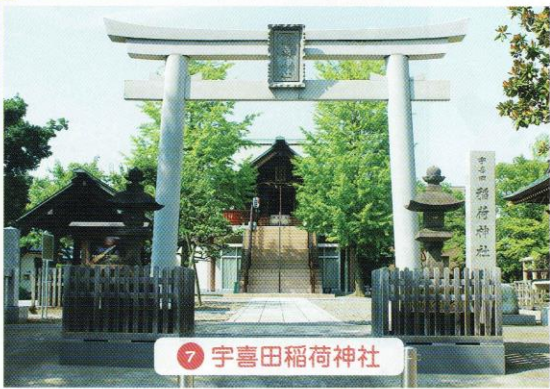
5 宇喜田さくら公園



6 宇喜田第一住宅



8 宇喜田中央公園



7 宇喜田稲荷神社

学校周辺マップ



1 葛西くすのきカルチャーセンター



2 法蓮寺



12 共育プラザ



11 宇喜田公園



10 行船公園ふれあいコーナー



9 平成庭園

